

『苦難を越えて』

ベルナデッタ 柴田 良子

一九三五年、私は、小学校に入  
学した時、父からの遺伝で、視力  
が眼鏡をかけて右が〇・三、左が  
〇・五くらいで、教室の黒板の字  
が見えず、一番前の席で授業を受  
けた。

四五年、八月二日、富山市は、  
B 29の来襲で焼野が原になり、母  
が芸妓置屋を営業していたが、蔵  
も炎と化し、一瞬にして哀れな生  
活を送る身となった。

四九年、母は他界。復員してき  
た兄は商売を始めたが、四、五年  
後に破産してしまった。兄のこ  
ろにアルバイトにきていた女学生  
から、市内にカトリック教会があ  
ることを知り、教会を訪れた。神  
言会のドイツ人の神父様で、聖堂  
で静かに祈つていらつしやる姿に、  
心が動かされ、公教要理の勉強を  
始めるようになった。この神父様  
は、多治見の墓地に眠るヨゼフ・  
シーベク神父です。

教会の信者さんから頂いた聖フ  
ランシスコ・サレジオの「信心生  
活の入門」を読んだ。断食を愛す  
る人は、断食さえすれば、信心と  
思っているであろう。嘲罵、事実  
をまげて人を悪く言っておとし  
られたり、怒と傲慢と軽蔑のことば  
を浴びせるものもある。心から柔  
和を出すことができぬものもある。

真の信心は、天主の愛に基き、  
つまり天主の真の愛にほかならな  
いのである。天主の愛が、善徳を  
行う力を我らに与える時、これを  
愛徳という。我らが熱心に、かつ、  
しばしば、かつ、容易に善を行う  
に至る時、これを信心と称するの  
である。

黙想について、祈祷の必要につ  
いて、朝の勤行、聖人を敬い、そ  
の扶助を求むべきこと、ほんの一  
部ですが、繰返し読んで、私は、  
五三年に受洗しました。

二〇〇四年、五月、聖母マリア  
様が、ベルナデッタに御出現になっ  
た「マツサビエルの洞窟」に、巡  
礼し、一八五八年、二月十一日か  
ら十八回も御出現になり、極貧と

喘息の発作に見舞われながら祈り  
続けた聖女に、思いを馳せながら、  
ヌヴェール市のヌヴェール愛徳修  
道院へと歩を進め、聖堂の柵の向  
うにいらつしやるベルナデッタの  
御遺体に、頭を下げ祈り続けてい  
ました。

女手一つで育てた娘は他家へ嫁  
ぎましたが、喜寿の坂を越えるこ  
とが出来ました。イエズス様、マ  
リア様の御加護に感謝いたします。



『はじめの一步』

ルイーズ 八幡 京子

本年四月、復活徹夜祭にて洗礼  
のお恵みをいただくことが出来ま  
した。私がカトリック城北橋教会  
を訪れたのは、今から五年ほど前、  
秋の頃、たつたでしょうか。ハンディ  
ーを持って生まれた娘を、教会の  
一画でやっておられる「みこころ  
子どもの家」に通わせたい一心で、  
右も左もわからないまま、初めて  
自らの意志で「教会」というとこ  
ろに足を踏み入れたのでした。そ  
のときの空間をつつみこむような  
静寂と、庭の木々の間から見えた  
高く澄んだ空に、わけもなく心打  
たれたことを鮮明に覚えています。

学生の頃、西洋の思想と音楽を  
少しかじった私にとって、目を通  
した書物や詩人のことばに、ある  
いは、奏でた音符の中に、キリス  
トの存在を知る機会があったのだ  
と思います。しかし、残念ながら  
当時の私はそのことに気づくすべ  
もなく……。